

● ⑥⑥ 旧北上川河口部復旧復興事業・石巻地区かわまちづくり事業 ●

受賞機関 国土交通省 東北地方整備局 北上川下流河川事務所

キーワード 復旧復興事業、川と水辺を活用した賑わいの場、震災復興のシンボル

全建賞審査委員会の評価ポイント

東日本大震災からの復旧・復興として、旧北上川河口部の一連区間の堤防整備を行った事業。川と人とのつながりを意識し、有識者や地域の意見を丁寧に聞きながら堤防天端と商業施設が繋がる一体的な空間を約8kmに渡って創出しており、歴史文化の継承と地域の活性化を両立させた河川の復旧・復興の模範となる取組であることが評価された。

1. はじめに

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の津波により東北地方の太平洋沿岸部の地域を中心に甚大な被害が発生した。

旧北上川河口部の宮城県石巻市においても沿岸部・沿川部では津波の直撃を受け、多数の一般住家が流出したほか、市の中心部の市役所周辺も数日にわたり浸水するなどの大きな被害が発生した。

これを受け、北上川下流河川事務所では、市民や宮城県、石巻市などの関係機関と連携しながら、震災直後から旧北上川河口部復旧復興事業を進め2022年3月末に完成した。

2. 事業の概要

旧北上川河口部の復旧復興事業は主に無堤であった旧北上川河口部の石巻市街地に新たに堤防整備を行うものである。

石巻市は川湊として古くから旧北上川とともに発展してきた街であったことから、市民生活と水辺が深く関わっており、堤防整備は、この点を最も留意すべきであった。



石巻市街と中央地区堤防一体空間

復旧復興事業で整備する河川堤防は、石巻湾の海岸堤防高と整合を図り高潮に対して必要な高さであるT.P.+7.2m～T.P.+4.5mの堤防高で計画されたが、堤防整備により

最大約5mの新たな“壁”が整備されることとなり、地域の安全度は向上するものの、歴史ある川と街との関係を分断してしまうこととなる。このため、堤防整備以前の水辺空間の再生と、市民が集い交流できる賑わいのある新たな水辺空間を創出しながら堤防整備を進めることとした。

水辺空間の検討にあたっては、地域や河川を利用される皆様の意見を反映させるため「市民部会」を開催して地域の声に耳を傾けながら検討を進めた。

3. 事業の成果

石巻市の震災復興のシンボルである旧北上川の河川堤防が完成したことから中心市街地が洪水・高潮・津波の被害から軽減されるとともに、堤防と一体となった水辺空間が生まれた。

これにより、これまで以上に川と水辺を活用した賑わいの場や、市民の憩いの場が創出され、安全安心な暮らしとあわせて、石巻市の復興に大きく寄与すると考えている。

4. おわりに

震災から11年1月の期間を経て完成した本事業を市民の皆様と祝うため、2022年4月23日に完成式を執り行った。

完成式は、屋内・屋外の2部構成で行い、屋内の第1部は新型コロナ感染拡大防止対策を施したうえで関係者に限定して行ったが、第2部は整備の拠点の中心である中央地区堤防一体空間において、事業完成を祝した航空自衛隊ブルーインパルス展示飛行を多くの市民の皆様と一緒に観覧し、新たな水辺空間を活かした今後の石巻市の未来に思いを馳せた。



完成式で多くの市民が訪れた堤防一体空間